

阿嵎嶺（賴山陽）

危礁 乱立す 大濤の間

皆を 決すれば 西南の山を見ず

鵲影は 低迷し 帆影は 没す

天に 水に 連なる 処 是れ 台湾

危礁亂立大濤間 決皆西南不見山
鵲影低迷帆影没 天連水処是臺灣

解説 阿嵎嶺は鹿児島県の西海岸、現在の阿久根市である。阿久根は東シナ海に面し、その海岸は奇岩をもつことで有名である。

語釈 ※危礁Ⅱ海中からつき出て高くそびえ立つ岩。※大濤Ⅱ大きな波。※決皆Ⅱ目を見張って見ること。※西南Ⅱ東シナ海は阿久根の西南方向に広がっている。※鵲Ⅱ鷹の一種、熊鷹。※低迷Ⅱ低く徘徊すること。

通釈 この阿久根の海は、奇岩・怪石が大浪の間に乱立している。目を見張って西南の方向を凝視すれば、大海原が果てしもなく広がっているだけで、一点の山影も見えない。目に入ってくるものは、海面低く飛び舞う熊鷹のみで、先ほどまで見えていた船の帆影も、いまはもう水平線のかなたに消えている。その天と水が一線に連なる水平線のあたりこそ、台湾であらう。